

総領事館便り 11 月号

★「第 21 回漢字カップ」の開催報告

10 月 19 日、スラバヤ国立大学（UNESA）にて、在スラバヤ総領事館、国際交流基金及び IMC センターの共催で「第 21 回漢字カップ」を開催しました。今回で 21 回目を迎える「漢字カップ」は、東ジャワ州内外で日本語を学ぶインドネシア人学生を対象に漢字の知識を競う大会です。今大会には、東ジャワ州だけでなく、ジャカルタ首都圏、ジョグジャカルタ特別州、中部ジャワ州等からの参加者を含む約 200 名が参加した他、エキシビション・マッチでは SJS 児童の皆さんにも参加いただきました。

在スラバヤ総領事館では、東ジャワ州における日本語教育推進のため、「漢字カップ」を始めとした日本語・日本文化関連行事を開催しており、今後も日本語学習者応援のための各種イベントを開催する予定です。EJJC 会員の皆様におかれましても、是非関心を持って見守っていただけますと幸いです。



初級個人戦



中級決勝



表彰式



SJS 児童とのエキシビション・マッチ

★令和5年度草の根・人間の安全保障無償資金協力「東ジャワ州ンガンジュク県イスラム小学校校舎建設計画」の引渡し式

10月3日、竹山総領事は、日本政府の支援により東ジャワ州ンガンジュク県のイスラム小学校に建設された校舎の引渡しを行いました。引渡し式には、ハンドコ・ンガンジュク県知事代行や支援の対象となった小学校関係者が出席しました。

今回新校舎の建設と学校備品の整備が行われた小学校は、生徒数の増加に教室が不足し、児童は天井が崩落する危険がある教室で授業を受けざるを得ない状況でした。引渡し式において、竹山総領事は、今回の支援を通じて児童・教員が適切な環境で授業を行えるようになり、ひいては地域の教育の質の向上につながることを期待しており、整備された校舎や備品を最大限活用してもらいたい旨述べました。在スラバヤ総領事館では、支援された校舎や学校備品が長期間最大限活用されるよう引き続き関係機関と連携していきます。



今回の支援で建設された校舎の外観



整備された校舎を視察する竹山総領事、
ハンドコ県知事代行、学校関係者

★離着任の御挨拶

●山本優 領事（着任）

10月17日に、菅原の後任として、在スラバヤ日本国総領事館に領事担当として着任いたしました山本優（やまもと まさる）と申します。

インドネシアには、2007年から3年ほど、ジャカルタの日本国大使館にて勤務して以来となります。当地に来る前は、地球の裏側、米国東海岸のボストンというところで3年10か月ほど勤務しておりました。朝晩は5℃を下回る場所からの異動となり、雨期を迎えて蒸し暑い当地の気候に適應できるだろうかと心配していましたが、体調を崩すこともなくどうにか持ちこたえております。

当地に着任後、一か月に足らない状況ではありますが、日々の業務を通じて、ジャカルタ在勤当時と比べてもインドネシア経済は比べものにならないほど力強く成長し、また、良好な日尼関係がさらに強化されたことを実感しており、これもひとえにEJJCの皆様が、日々様々な分野においてご活躍されている賜であると認識しております。

当総領事館、とりわけ、領事班の仕事は、皆様のこうした営みを様々にお支えすることであり、一担当官として、領事業務関連の情報発信面も含め、微力ながら貢献して参る所存です。EJJCに皆様におかれては、これからお世話になりますが、何とぞよろしくお願い申し上げます。